

# 朝霞台中央総合病院が移転

## 来月1日 病床・救急受け入れも増

朝霞市の朝霞台中央総合病院が来年1月1日に同市溝沼に新築移転し、「TMGあさか医療センター」として開業する。外来受付は4日から。病床数は446床で、現在より120床増える。救急患者の受け入れも拡充するなど、急性期病院として地域医療の拠点としての役割を担う。

新病院は地上7階建ての免震構造で延べ床面積は約2万5500平方メートル。首都圏で病院や介護施設などを運営する戸田中央医科グループ(TMG)が、同市西弁財1丁目の現在地から南東に約800メートル離れた東洋大朝霞キャンパス総合体育館跡地に建設を進めていた。

1、2階は救急センターや外来診療、3階は集中治療室や手術室、4階は脳卒中センターやてんかん患者の専門治療を行う「てんかんセンター」がある。病棟は4、6階で緩和ケア病棟も設ける。

スタッフは約1100人で、うち常勤医は約100

人を見込む。診療科は新たに緩和ケア科、歯科口腔外科、精神科、神経内科が加わって26科体制となり、1日の外来患者は約1300人を想定する。

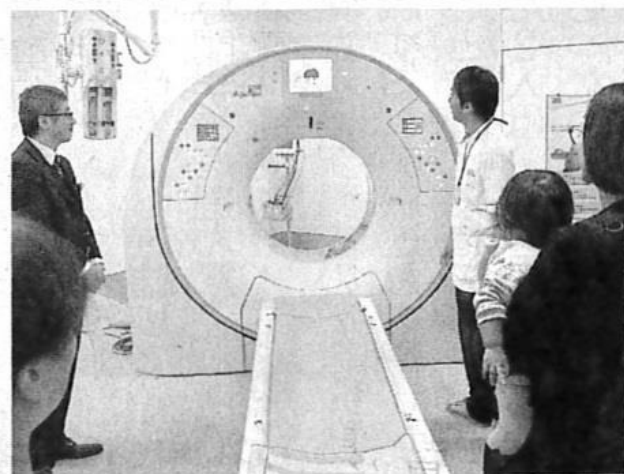
最新型の検査機器や治療機器などの設備も拡充。これまで年5千件だった救急患者の受け入れは7千件程度まで対応可能になるという。

現在地にある朝霞台中央総合病院はTMGの6番目の病院として1977年に開業。増築などで需要増に対応してきたが、手狭になり新築移転を決めた。12月29日までは外来を受け付ける。1月からは「TMGサ



来年1月1日に開業するTMGあさか医療センター

11月下旬の内覧会で設備が市民らに公開された



テライトクリニック朝霞台」となり、健康診断や人工透析などの施設となる。